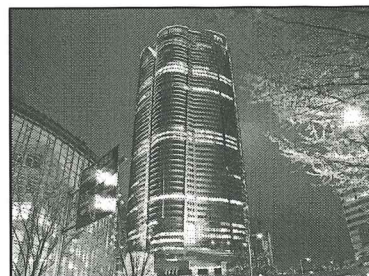


I 章 はじめに

地域活性化、地域福祉、地域主権、地域連合……。 「地域」という言葉を耳にし、目にする機会が増えました。また、「地方の時代」という言葉もよく聞きます。にもかかわらず、地域をめぐる現状は深刻化する一方です。少子高齢化による過疎化、雇用の悪化などを背景に、地域間格差は広がり続けています。「地方の時代」とは裏腹に、様々な地域が疲弊し、衰退しているのです。宇和島も例外ではなく、実際に生活する我々としても、この地域の衰退は目に見えて進行していると実感し、将来に対する不安を抱えているのが現状です。



しかし、あらゆる地域がそうした現状に直面しているなか、**活性化に成功している地域もまた存在しています**。そうした地域では、住民と自治体が知恵を出し合い、実に個性的なまちづくりを実践しています。

こうしたなか、宇和島としても圏域は生き残りを賭け、**独自の特性・優位性を活かしたまち全体の方向性を模索**しなければならない状況にあると思われます。つまり、**まち全体が、このまちにしかない共通したコンセプトをもち、同じベクトルに向かって進み、また外部からもそう思われるまちにならなければならないと考えます**。では、実際に当地域はどうでしょうか。宇和島は、真珠、鯛、ハマチ等の養殖業を始め、海洋資源が豊富で、天然の良港に恵まれるなど、地理的・自然的な条件が優れ、歴史的にも他の地域と比べ実に「海」が日々の暮らしの中で、大きな役割を果たしていることに気がきます。こうしたことから、**宇和島は水産・海洋の実績に関するポテンシャルを活用することにより、「世界的な海洋先進都市」の形成を目指し、新産業の創出、地域経済の活性化を目指せる可能性を秘めている地域**であると考えられます。



そこで、本構想は、まず宇和島の海との歴史を理解し、海洋先進都市の概容・方向性に触れ、その基盤・切り口として「教育・研究機関の改革」、「海洋政策の一元化」、「市民・企業の意識改革」を提案し、将来様々な具体的施策が実現するための基盤整備を目指したいと思います。そして、産学官民の連携を図り、われわれが考える10年、50年、100年後の宇和島圏域の生き残りを賭けた姿・未来像を提言してみたいと思います。

